

# 地域づくりと農村リゾート

## — 愛媛県上浮穴郡久万町の事例を通して —

小泉勇治郎（松山東雲女子大学）

キーワード：グリーンツーリズム、農村リゾート、クラインガルテン、地域づくり

はじめに：

1969年に閣議決定された新全国総合開発計画の基本目標は、豊かな環境の創造であった。しかし具体的な開発方式は、大規模プロジェクト構想であり、むつ・小河原や苫小牧東の例にもあるように、課題であった人と自然との調和や自然の恒久的保護、保存などは達成できずに終わった。また、1987年から始まった第4次全国総合開発では多極分散型国土の構築を目標とし、交流ネットワーク構想という開発方式をつかって地域特性の活性化、交通・情報・通信体系の整備、交流機会の形成を図った。この計画の目玉は、1987年に施行された「総合保養地域整備法」であった。しかしながら、ますます東京一極集中は加速され、地方のリゾート開発にはだぶついた民間資本の地方への投資が行われ、バブルの崩壊とともに開発計画は、縮小・取りやめ・延期などとなった。

5度目の計画である全国総合開発計画は「21世紀の国土のグランドデザイン」をメインタイトルとし、サブタイトルとして「地域の自立の促進と美しい国土の創造」を挙げている。しかしながら、この計画も環境に対する認識の改善が課題であるとか、自由時間の活用に関する視点が欠如しているなどの指摘がある。

そういった国家的計画が進められていく中で、農山村を中心としたリゾート事業、ツーリズムが農山村活性化のひとつとして全国的に台頭してきている。

21世紀の国土のグランドデザイン（5全総）においても農村との関わりに言及しているが、そこでは現在の農業改善と農村リゾートとのギャップがあるように思える。

本研究では愛媛県上浮穴郡久万町で実施されている「農村リゾート地づくり」を事例として取り上げ、自然への回帰と環境保全志向の中での本来あるべきリゾート開発なのかを探ってみることとした。

### 2. 研究の目的

愛媛県の中南部、上浮穴郡の北西に位置する久万町は、四国山地に囲まれた東経132度55分、北緯33度41分にあり、標高400m～800mの高原の町である。

この久万町は「自然と共生する高原文化のまちづくり」をキャッチフレーズに、自然と共生する農林業に支えられた美しい環境の農山村づくりを基本に、都市と経済、文化交流のある農村リゾート地として町づくりを行っている。本研究では、1972年（昭和47年）から始まったこの「農村リゾート地」づくりがどのような発想から誕生し、現在どのようなプログラム展開をしているのか、また将来に向かって何を発信しようとしているのかを検証してみた。

### 3. 研究の方法

愛媛県上浮穴郡久万町長との面接インタビューをはじめ、商工観光課・農政課スタッフへの面接インタビュー、久万町関係資料の分析（分析資料は以下の通りである）を実施した。

- 1, 久万町誌（増補改訂版） 1989年 久万町
- 2, 平成10年度 久万町教育の現状と重点目標 久万町教育委員会
- 3, 久万町のまちづくり 1995年 久万町
- 4, 県政のあゆみ 平成9年度版 愛媛県
- 5, 生活文化県政新プラン21－－豊かな暮らし、ゆとりの社会、たくましい郷土の実現－－ 愛媛県
- 6, 久万町勢要覧1998 1998年1月 久万町役場

そして、現地へのフィールドワークを行った。

#### 4. 結果、考察

久万町の主産業は農林業であるが、ここ30年来全国共通である若年者層の都市への転出による過疎化、高齢化があり、人口動態は表-1のごとくである。

表-1 久万町人口

	人 口	戸 数
1959年（昭和34年）	14979人	3260戸
1965年（昭和40年）	12568人	3356戸
1987年（昭和62年）	8493人	3016戸
1990年（平成2年）	8193人	3002戸
1995年（平成7年）	7896人	3046戸
1997年（平成9年）	7780人	3078戸

また、農業人口も年々減少し、1970年（昭和45年）7096人であったが、1995年（平成7年）には3486人に減少している。また高齢化率も1995年には65歳以上の高齢者が28%になっている。

久万町は、そういった状況のなか、むしろ不振の農林業を起爆剤として町づくりを始めた。それは、久万町第3次総合振興計画であり、そのメインテーマは「自然と共生する高原文化のまちづくり」である。計画策定にあたって、それらがプロのコンサルタントによって作られたのではなく、町民の参加と協力によって策定されたものであることを強調しておきたい。

そして、次のようなまちづくりの具体的な事業が開始された。

- 1, 稲作省力化による高原野菜栽培。トマト・大根・ピーマン等の生産団地化・銘柄確保化（トマトは約10億円産業に発展）
- 2, 観光農業やクラインガルテン（市民農園）の推進、消費者ニーズに対応する流通情報調査活動の実施
- 3, 第3セクター方式による若手林業家の育成と、木造建築文化の再生

- 4, 農山村の自然と生活文化を体感できる「ふるさと旅行村」を拠点とする観光農業・民宿・国民宿舎・物産館の開設
- 5, スポーツ合宿村構想の一環としてのラグビー場や、スポーツリゾート地としての運動公園・ゴルフ場・スキー場・屋内クロッケー場の開設
- 7, 質の高い文化の拠点としての全国初の木造美術館の開設および都市生活者のための「ふるさとの森」事業

その結果、久万町への入込観光者数及び宿泊数は

表-2 入込観光者数・宿泊数 (単位:人)

		年間合計	月平均
1995年 (平成7年)	入込観光者数	470,882	39,240
	入込宿泊者数	53,543	4,461
1996年 (平成8年)	入込観光者数	538,370	44,864
	入込宿泊者数	48,250	4,020

表-2のごとくになり、滞在型リゾート客が増加し、かつて、農林業の過疎の町、四国霊場の門前町、土佐街道の宿場町と言われたイメージから農村リゾートへの脱皮を開始した。観光による売り上げも約20億になっている。

特に、都市生活者との交流を生むプログラム展開、例えば「ふるさとの森事業」(町有林文収育林制度)は1983年(昭和58年)から実施されており、都市住民から1口30万円で会員になってもらい、20年後に町が育てた立木の収益を出資額に応じて返金するシステムのものであるが、全国から830人の会員が集まり、ふるさとを持たない都会の人たちの憩いの場となり、町からは季節の農産物の贈り物をしたり、町のリゾート施設の割引利用の案内があったりする。

また、町の林業祭り、納涼祭り、リンゴ狩り、栗拾いなどへの案内、機関誌の作成や町の話載せた広報紙の送付など都会と町との交流、結びつきを深める配慮がある。

1999年4月にはクラインガルテン(市民農園)を久万農業公園構想の中で実現させようとしている。これは1988年より松山在住の人たちにテスト的に導入し、ある程度の手応えのもとに本格導入するものである。

表-3 クラインガルテン構想

水田の大きさ	作業・宿泊小屋	区画数
20坪	あり	8
10坪	あり	14
10坪	なし	40*

\*10年前より実施  
松山市民対象

このクラインガルテン構想の中には若者の都市部への流出、農家の担い手不足が深刻な問

題となってきた中で、今後の農地保全や農業生産を確保する目的も含まれている。そこで、農業を志す若者やUターン、リターン希望者を町内外から募集し、一定期間の農業研修の場を提供することによって農業の担い手育成を行いつつ、地域資源、生産基盤を生かした新たな農村型アグリビジネスの展開により農村定住人口の確保を目指して久万農業公園の整備を行う計画である。

まとめ：

人口8千人弱の農林業の町、久万町が大規模リゾート開発（えひめ瀬戸内リゾート開発構想）構想の中に位置付けられず、あるがままの自然、農村の文化、地域の人々の温かきもてなし、都市と農村の交流などを中心とした「グリーン・ツーリズム」を住民の総意のもとに進めてきたことが、ここに大きな成果を出しているといってもよい。

このグリーンツーリズムの実践によって、都会に住む人たちにとっては、自然を感じながら、のどかな時間を過ごしてもらおう。農村で、ゆとりある暮らしの中から「心の豊かさ」を実感してもらおう。土を耕したり、人々とのふれあいを楽しんでもらおう。一方、農山村民にとっては、交流を通じて農村の良さを確認してもらおう。地域への誇りを再確認してもらおう。地域の資源を生かした新たな産業の創出、新しいビジネス・チャンスを求めてもらおう。などの目的があろう。

自由時間の拡大とともに余暇の使い方が本当に問われている中で、従来のリゾート法華やかなときの金銭消費型余暇活動が、バブル崩壊とともにもろくも崩れ去り、それらに代わって「グリーン・ツーリズム」、「農村リゾート」、「アグリツーリズム」といった言葉が聞かれるようになった。特に環境破壊が進む現代、自然との共生、環境にやさしいと言ったキーワードがそれらの言葉によって表現されている。つまり、通常の商業主義的な観光・リゾートではなく「もう一つのツーリズム」と言い表すことができる。

こういうリゾートづくりはスローテンポであり、その原点は四国88カ所霊場巡りのお遍路さんに辿り着くのではないだろうか。

参考文献：

佐藤 誠「リゾート列島」 岩波新書 1990年4月

佐藤 誠「阿蘇グリーンストック」 石風社 1993年9月

リゾート・ゴルフ場問題全国連絡会「検証・リゾート開発」 緑風出版

1998年2月